

**<研究ノート>韓国開化期教科書における漢字語研究  
：「漢字語使用実態」の調査及び「日本語の関与に  
よる漢字語」の確定を中心に**

|             |   |
|-------------|---|
| 著者          | 郭 永?  |
| 雑誌名         | 日本研究 : 国際日本文化研究センター紀要   |
| 巻           | 17  |
| ページ         | 221-254   |
| 発行年         | 1998-02-27  |
| その他の言語のタイトル | A Study of the Kanjigo Appeared in the Textbook in the Age of Korean Civilization |
| URL         | <a href="http://doi.org/10.15055/00000761">http://doi.org/10.15055/00000761</a>   |

〈研究ノート〉

## 韓国開化期教科書における漢字語研究

——「漢字語使用実態」の調査及び「日本語の関与に依る漢字語」の確定を中心に

郭 永 喆

### I、序

古い時代からの漢字使用という点において、日本語と韓国語とはその文法的構造の類似性が他の国の言語より親密性を持っている。勿論、文法的な面もその骨格は大概において似ているが、細かい小分類や文法的現象は相当異なっていることは言うまでもない。又、韓国における文字文化が漢字とハングルの二重構造になっているのは、日本と同様である。BC一〇〇年頃韓国に入ったと見られる漢字は長い伝統文化を反映し、今日に至っては固有文化語という側面を持っている。文法的構造と漢字使用という接点は古くからあり日韓両国語は互いに間接影響しあうようになったと見られる。

韓国語における日本語との交渉という面は、歴史的には非常に古いと言える。しかし、その具体的接触は朝鮮通信使の使行記録からであると言ってよい。これには宋希璟『日本行録』

(二四二〇)、申叔舟の『海東諸国記』(二四七二)など、一六〇〇年代の姜弘重の『東槎録』(二六二四)、南竜翼の『扶桑録』(二六五五)などがあり、一七〇〇年代の趙曦『海槎日記』(二七六三)など数多くあげられる。だが、日本製漢字語の始まりは、丙子修護条約(一八七六)以降が決定的時期と言ってよい。この条約に直接参加した修言使金綺秀の『修信使日記』及び『日東記録』(一八七六)などをはじめとして開化期の多くの知識人などが日本の近代文明視察のため渡日、その影響が多いと知られている。金弘集『修信使日記』(一八八〇)、朴永孝『使和記略』(一八八二)、兪吉濬の『西遊見聞』(二八九二)などの記録は、漢字を持って日本で作りあげた新文明語彙即ち日本製漢字語が多く、韓国語に相当影響を及ぼしている。

山田孝雄博士はその著「国語の中に於ける漢語の研究」で漢語の源流を考察し、その流入の手続による源流として次の四種をあげている。

(イ) 直接又は間接の交通輸入によるもの

(ロ) 漢学より伝わりたるもの

(ハ) 仏教の書により伝わりたるもの

(ニ) 洋学の翻訳より生じたる漢語

上記の分類のうち、(イ)(ロ)(ハ)に属する漢字語は中国での造語と見られ、(ニ)は日本の近代化に伴う新しい概念の必要に応じ日本で製造された翻訳語であると言える。日本の文明開化に依って導入された新しい概念の語は、それまでの日本に存在しなかった宗教・学問・技術など広い範囲の領域の専門用語に多く集中していると考えられる。これらの翻訳語は、漢字語が中国語からそのまま借用されるか、あるいは訓読、音読、修正などの方法が加えられ日本語に取り入れられ、日本独自の訳語になり次第に定着していくこととなった。また、これらの所謂「新語」に関連して、飛田良文氏は「東京語成立史の研究」という著書で、その誕生期を考える上で、次の三通りの場合があると述べている。

〔イ〕 新しく造語する……新造語 (恋愛・背景・要素・理想・優待券・労働者など)

〔ロ〕 外国語を借用する……借用語 (ステーション・アルバムなど)

〔ハ〕 在来語を転用する……転用語 (演説・郵便・風潮・影響など)

氏は、文明開化に伴う外来文化の移入を新語の造語法という

観点から考察している。このうち、「イ」「ハ」にあたる語には、漢字語が多い。特に、「イ」の新造語は、西洋文化の移入にもなるものが大部分で、日本製漢語である。

これらの翻訳語乃至新語は、韓国または中国に逆輸入の形で渡り、その読み方は異なるにせよ、意味的な面で名実ともに日本、中国、韓国東洋三国の共通的な性格を帯びている。これらの「日本語の関与」による漢字語の韓国への輸入は、言うまでもなく日本の「近代化」を模範とする韓国の文明開化という社会的啓蒙に伴う変遷過程において、言語の借用という形で起きたと思われる。また、地政学的環境と共に、同じ漢字文化圏という共通的地盤なども影響してスムーズに韓国の言語生活に定着していくことになったのであろう。当時の社会的・文化的背景にはこのような素地が十分存在していたと考えられる。

勿論日韓併合、朝鮮語抹殺政策により朝鮮の文物制度が日本式に大きく変わるにつれ、韓国語に対する日本語の干渉は極点に達したときもあった。この論では、その以前の開化期教科書に用いられている漢字語を抽出し、その典拠別に分類し使用実態の把握を試みたいと思う。

## II、開化期教科書の性格

開化期教育の一般的概況でいえるものは、まず従来の書堂教育(日本の寺子屋)から新しい学校教育に継承したもので、これは所謂新式学校令に基づいた公式基準に依る近代化教育であ

る。自由・平等・解放など国民の義務及び権利を尊重して公式教育へと発展するもので、先進文物の制度を学び開化意思の具現を目的とした。

日韓併合以前から本格的植民地教育の始まる直前までの開化期教科書を刊行年代順に従ってその特徴・内容・編纂目的などを整理すると、次のようになる。

### ①国民小学読本

韓国の近代教育が制度的に確立されるのは、一八九四年甲午改新以来である。カトリックを始め宣教師達に依る民間の自立的教科編成期を経て、一八九五年七月学部で編集刊行した最初の教科書が国民小学読本であった。これは学部の小学校令に基づく新式学校教育用の単行本であり、表題は国民小学読本としたが、所謂現在の国語読本の前身である。木刻活字に依る旧式印刷術及び製本術に依るもので、民族意志・自由独立の精神・主権守護の意志などが現れており、混沌の時代を克服しようとした時代性が読み取られる。

編制の特徴は、ハングル・漢文混用体で三十一課百四十四ページである。比較的長文型、古文風の文語文体であり、特に本研究と関わる漢字語は、相当難易度の高い漢字を多く用いている。しかし、その内容は、甲午改新の基本精神である自由独立や歴史的主体性の教育を通じて実現させようとする新学制時代の野心に満ちた教科書であり、一九一〇年、朝鮮総督府による発売禁止処分を受けた。

### ②小学読本

最初の教科書より約一ヶ月後に刊行された、学部からの二番目の教科書である。この小学読本は、単巻・五単元の編制で、立志、勤誠、務実、修徳、応世などの項目で構成されている。

また、国民小学読本と対照的なのは、経学的な修養訓に基盤を置いて道徳的価値を重視したところにある。すなわち、国民小学読本の革新的教育指標をあげ、旧道徳、旧精神、旧倫理に挑戦的な内容であったが、これは比較的に急進に對し制御的役割を目的とした刊行であったのではないかと思われる。

したがって、国民小学読本より多くの難解な漢字を用い、国漢混用の文語文体の表現であり、相当長文型の文章が特徴である。

### ③新訂尋常小学

一八九七年二月に刊行された、学部の小学令に依る三番目の国定教科書である。三巻三冊の編制であり韓紙に依る製本で、国漢文混用体が用いられている。前記の2種の教科書より漢文の難易度が相当平易で、文章も比較的短文型である。文体は文語文体が多いが、口語文体も相当進歩して一言文一致に近い。

その内容は、従来の国家及び歴史的次元と異なり生活中心・家庭中心・社会的中心で、変遷方向が向上されている。巻一の序に日本人補佐員高見亀と麻川松次郎がかかわったことが記され、学部で新しい教科書編纂の為に日本人を雇用した事実と彼らが直接教科書の内容に影響を与えていたことがわかる。例え



ば、挿画、風俗、衣服などが純日本式に導入されていたり、日本人に関する記事が単元の一部に編まれているなど、日本の影響が既に現れていることに注目したい。

#### ④幼年必読

幼年必読は、一九〇七年玄采個人名義に刊行された一種の検定教科書であり、従来の学部編纂より進歩の形態である。その序文では、

●我韓人、尚泥旧習昧於愛國誠、故此書專以喚起國家思想為主、以歷史為總括、傍及地誌與世界事狀。

●此書、雖曰幼年教科、而實雖老年人亦不可不一読、蓋欲其知國家人民之關係。

と書かれており、愛國思想の喚起や歴史的地誌知識の国内外への普及などが、その編纂目的として察せられる。言い換えれば、伝統的な主体性確立として新しい世界事情を学び、国際競争において自主を重んじることを教育目的にしたのである。

また、この教科書に関して、最初の現代口語体文章に依る構成が挙げられる。その背景は、編纂目的に沿って日帝侵略に對抗した排日の信念と思想を生み出した代表的な教科書でもあった。そのため一九〇九年五月五日付で禁書処分されたが、押収部数が他の書に比べて最も多く、その読者層のあつさが知られる。

#### ⑤初学女学読本

一九〇八年三月李源競による女性用として独立的に編纂され

た教科書である。これは従来女性に対する無学・無教育を嘆き、新しい文明の時代において男子教育より重要であることを説いた。従来重視して来た女誠内訓、家訓など日用常行之道が重点におかれている。

編纂の特色は、漢文を前に提示、これをハングルで説明するような形式を取っている。三綱五倫に即した韓国女性教育の典型的な教科書と言えよう。

#### ⑥労働夜学読本

韓国最初の日本留学生である俞吉濬が一九〇八年七月一三日付で発行した。労働者が夜学を通じて文盲から抜け出し、文字を習得するように編まれた国漢文混用であるが、ハングル専用と言っても良いぐらい漢字の横にハングルのルビが入っている。例えば、「我身」は *asin* という韓国式漢字の音読ではなく、*nenom* という日本の訓読み式を導入、韓国語に依る訓読みを採用している点が興味深い。発刊の根本趣意は、労働者は国のために仕事をし人は学ばなければならないということを力強く訴え、特に勤労者大衆のための教育を強調している。この俞吉濬の思想は、おそらく逸早く日本留学と米國留学などを通じて得た新しい知識、即ち万民平等思想である。文民主義思想に根を下ろしたものであり、韓末の切迫した諸問題が教育の普及化特に大衆教育が国の伸張の基盤であるという彼の確固たる意識からであろう。この教科書は一九〇九年に日帝に依り治安法違反で禁書処分を受けることになる。

以下、上記の六種の教科書から漢字語を抽出し、それぞれの漢字語の出自を念頭において、中国・韓国・日本の辞書への登載有無を調査しつつ、各グループ別の使用実態や特徴などの検討を試みる。また、日本語の関与による漢字語（漢籍の転用語や日本製漢語など）を確定し、その実態などについて述べることにする。

### III、漢籍・漢訳仏典に典拠が認められる語

まず、漢籍・漢訳仏典への典拠の認定は、諸橋轍次氏著「大漢和辞典」に登録されており、その用例のあるものを基準とした。<sup>(2)</sup> 見出し語として設けられている語であっても、その使用例のない語は、典拠の不明な語として取り扱った。また、韓・日両国「国語大辞典」の見出し有無により、次の四つに分けて検討していくことにする。

#### III-1、韓国『国語大辞典』・日本『国語大辞典』ともに登録されている語

漢籍・漢訳仏典に典拠のある語で韓・日両国の辞書ともに登録されている漢字語は、中国出自の日韓同形の漢字表記語彙とも言える。これらにあたる語は、今回調査した語全体の五十五%を越え、その割合が非常に高い。参考までに、力行・サ行の一部を挙げてみる。傍線を引いた語は、漢籍に典拠をもつ「転用語」<sup>(3)</sup> または「日本経由語」<sup>(4)</sup> と見られる語である。なお、原文

の旧字は総べて常用漢字に直した。(以下同じ)

(カ)可愛、価格、化学、課業、歌曲、加減、家國、火災、仮称家族、過多、花壇、家庭、可憐、貨幣、貨物、火輪車、開化、改革、海岸、海軍、改悟、開合、外交、解散、海上、開進、開設、開拓、海底、回転、開導、会同、開明、海面、海路、格式、各国、各様、各自、学科、学業、学芸、学資、学校、學術、学徒、灌溉、感謝、関心、岩石、感歎、貫徹、感動、漢文、官吏、希少、希望、休暇、休憩、挙動、強國、強大、強者、共同、業務、苦学、空想、勲功、君主、軍隊、景色、經費、警備、敬礼、經濟、警察、繼承、決意、決議、嚴戒、研究、言行、減縮、權利、公園、講學、講習、公私、公使、後学、皇居、交際、光彩、皇室、後進、孝心、交戰、交遊、興隆、國王、刻苦、國号、國政、國恥、國中、國內、國文、國民、國憲、昆虫、懇請、懇切など。

(サ)最小、砂糖、砂漠、算術、算数、山積、三面、山野、山林、辞意、使役、四海、市街、士官、志氣、指揮、士君子、志士、辭職、私事、事實、私心、士大夫、指定、事変、死亡、私有、師友、自由、使用、飼養、失意、失業、実効、実状、実践、実相、実力、写真、授業、主權、種族、手段、主婦、手腕、周回、修学、從軍、修好、習字、修身、重税、從來、殉國、巡視、純粹、純朴、書生、書籍、所長、詳解、召還、蒸氣、商業、商工、詳細、昇進、商船、上部、城壁、商務、証明、上面、逍遙、勝利、植物、食糧、真実、新鮮、新年

新聞、水上、衰退、水面、数字、盛業、性質、誠心、成長、生徒、歳暮、税法、声明、成立、石炭、石油、石器、設置、船長、先進国、船舶、増加、総理、速成、卒業など。

これらの語例のうち、傍線の「可愛・化学・家庭・火輪車・開化・外交・開進・開明・学科・空想・景色・経済・警察・権利・公園・事実・自由・写真・授業・主権・手段・手腕・書生・書籍・所長・商業・新聞・税法・石炭・石油・船長・増加・総理」などは、漢籍の転用あるいは日本経由の形で、日本から受け入れられた語である。「家庭」は、『後漢書』に「常称病家庭、不応州郡辟召」の例のように、「家と庭とがあるところ」を指している。この「家庭」は、明治期の、英語 home に対する訳語としてよく用いられるようになった。「権利」の場合、中国の『荀子』にある「是故權利不能傾也」から見られるように、権力と利益の意である。それが英語 right の訳語で、法律用語としてよく使われるようになった。「公園」は、『魏書』に「減公園之土、以給無業貧口」とあるように、官有の庭園の意であったが、英語 park, public の訳語として一般化し、西洋の庭園の概念に変化した。また、「自由」については、進藤咲子氏の考察があるが、この「自由」は日本語に古くからあったことばであるけれども、近代思想の輸入とともに、訳語としての意味が加わったことばであり、即ち訳語としての意味が加わって高い理念が与えられたことばであると述べられている。このようなことは、「自由」を含め、この論で「転用語」とさ

れている漢語の一般的な性格ではないだろうか。というのは、「家庭・権利・公園・自由」という言葉はそれぞれ「home」「right」「park, public」「liberty, freedom」という西欧語を翻訳する必要からというよりもむしろ、新しい概念として使われる必要が生じたために出現したと考えられる。これらの語は、時代の変化・社会の変化に応じ、その意味も日本化したもので、そのまま韓国に入った語である。

このグループの語には、韓日における同形異義語もあった。「工夫・八字」など。「工夫」は「勉強・学ブト」の意味で用いられ、「八字」は「ハノ文字」という意味のほか、「星回り・身分・運命」などの意で用いられることの多い語である。

このグループに所属する語は、非常に多いけれども、ここで問題になるのは、なぜ韓国と日本の漢語が同じ語形の語が多いかということである。その理由は、中国から同じ漢語が韓日両国に伝わったためであろう。中国・韓国・日本はいわゆる「漢字文化圏」に属していて、古くから韓・日ともに中国の漢字文化を多く受け入れたのである。

### III-2、韓国『国語大辞典』にのみ登載されている語

日本語から見ると、これらに該当する語は次の三つのタイプが多い。

一つは、日本語に見られない語で、これが最も多い。

極尽、空石、恭遜、来侵、当身、凌逼、凌虐、对答、大位、

到處、道通、頓絶、得力、得罪、寶貝、馬鞍、万石君、罔極、盟誓、模糊、妙方、撫摩、問安、門下、便安、合心、問言、侍中、聖神、食口、施惠、失手、失時、文匣、如干、完久、雄壯、税錢、設使、相親、自古、疲困、避乱、下教、夏節、同生、兄嫂など。

これらの語は、漢籍に典拠はあり、日本語には受け入れていないと見られる語である。また、このグループには、韓国人独自の使用で転用された語が相当あると思う。例えば、上記の「当身・対答・問安・食口・同生・兄嫂」などは、中国の古典に典拠があつて、時代が経つにつれその語義が異なり韓国語化されたと思われるものである。<sup>(6)</sup>これらの語は、現代韓国語でも使用率の高い語である。

もう一つは、漢字表記は韓日ともに同じであつても、日本語では、語の全部または一部が訓読みされる語を挙げることができる。

毛織、時計、蜜蜂、毎朝、米粒、父親、白沙場、夜上、洗手、所謂、手下、羊、雨傘、相接、人々、両手など。

これらの語の場合、日本では混種語や固有語の形として受け入れているが、韓国では総べて漢字音読みの語である。

第三は、読みは上記の「米粒・父親」などに共通する面もあるけれども、その性質において、日本語では訓読みされる漢文訓読語的な性質をもつものである。

可惜、可笑、可用、其实、其余、其外、其中、不過、不成、

不少、不識、不然、不応、不忍、不寝、不避、我家、我輩、我身など。

例えば、「可惜・其外・不過・我家」などを日本語表現に言い換えれば、順に「惜しむべき・その外・過ぎず・我が家」に当たり、漢文訓読的な表現となるだろう。このような語の場合、日本では訓読みを取り入れ、漢文に返り点を打って日本語の語順に直して読んでいるが、韓国では音読みしかなく、上から下に棒読みをすることから生じた漢字語である。<sup>(7)</sup>それは、同じ漢字文化圏の中でも、日本より韓国の方が漢文の影響を身近に受けているためであらう。<sup>(8)</sup>

### III-3)、日本『国語大辞典』にのみ登載されている語

韓国の辞書に見られない語の中で、日本の辞書には登載されている語を挙げれば、次のようである。

勘定、減省、開物成務、巨魁、驚破、啓蟄、織塵、神歌、煙突、復位、放過、浩嘆、門衛など。

わずかな語数ではあるけれども、日本語では辞書の見出し語として設けられており、「勘定・巨魁・煙突」などは現代日本語でも相当使用されている語である。特に、「勘定」は日本製漢語とされているが、現代韓国語には使われていない。このグループの語は、開化期当時は韓国・日本両国ともに使用された語であるけれども、時代の変遷に従い、韓国ではほとんど死語となった語ではないかと思われる。

### III—(4)、両辞典ともに登載されていない語

韓国・日本両辞典に見出されない語は、次の通りである。

温良恭剣、横恣暴戾、強毅善断、開達、盖印、開眺、空過、控御、口体、五采、汗流滿身、寒房、狐假虎威、虎視竜驤、禍乱不弭、回水、揮尾一撃、事為、散附、相業、相衣、傷殘、相向処、西教連座、城鎮、性天、細瘦、小惠、水滴、水泉、施德布恩、是以、一寵、失道欠德、実眼、尋求、押邪、讎棄、獵取、營私、珠貝、什物、悽愴、親信將士、簪下、怠荒、勉之勉之、反求、発放、並肩、並駆自主、扶老契幼、芬華、蔽天、閉蟄、布在、暴場、漂泊、明庭、明中、賄々將行など。

このグループの語も、韓国語において時代の変遷により死語となった点では、上のIII—(3)の語と共通するが、韓国・日本両国ともに使用されなくなったという点で異なる。これらの語の一つの特徴として四字漢語が多いのがあげられる。四字漢語は漢文的であり、仮に中国の古典から受け入れられたとしても、韓国・日本での日常の語彙として長い生命を保つことができなかったことを物語っているのではないか。

### IV、漢籍・漢訳仏典には、典拠の不明な語

これらの中国の古典に典拠の分らない語は、韓国か日本かのどちらかの国で新しく作られた可能性が高いと言え、この点

で前述の漢籍・漢訳仏典に典拠が求められる語とは違うのである。中国古典の典拠の有無に関しては、大漢和辞典に見出し語が設けられていない語は勿論、見出し語があってもその使用例が見えないものは、すべて典拠のない語として扱った。しかし、これらの漢字語の出自を明らかにすることは難しい。特に「日本製漢語」が韓国に入ってきた当初は、長い間韓国の漢字語及び中国から入った語と一緒に使われたため、現在は語の出自が分からなくなったというものが少なくないからである。韓・日両国の辞典への登載有無により、前節と同じく四つに分けて考えていくこととする。

### IV—(1)、韓国『国語大辞典』・日本『国語大辞典』ともに登載されている語

中国の古典に典拠のない語で韓日両国の辞典に見られる語を見てみよう。これらの語も、前章のIII—(1)に取り上げた語と同じく韓日同形の語であるが、漢籍や漢訳仏典に典拠のない点で異なっている。

(カ)下層、過速、価値、開戦、概略、改良、各種、各地、各部、各方、学友、閣令、看過、奸人、間接、勘当、艱難、看破、虐待、旧恩、旧好、宫殿、宮内大臣、距離、居留、居留地、魚族、魚類、教科書、教師、強制、橋梁、協力、扶稚、金属、具備、君王、軍歌、軍艦、群集、群衆、慶祝、屈服、軍刀、軍部、継統、激戦、結合、結着、健康、権門、孤児

院、古代、雇用、行為、公会、郊外、広闊、交換、教義、  
鋳業、工業、紅蔘、公使館、宏大、公転、紅白、工銭、慌  
然、工曹、鋳物、慌忙、国外、国勢、国債、口実、構成、  
国旗、骨質など。

(サ) 搾取、惨状、時限、脂肪質、司令官、宗教、周日、充分、  
住民、重量、出校、書籍館、消火、小学校、蒸気車、蒸気  
力、償金、商事、証書、常食、詳述、職工、植民地、身心、  
水量、船客、船室、染料、総称、存廃など。

上に上げた語は、カ行・サ行の一部である。これらの語のうち、傍線の「価値」各部・看過・間接・勘当・距離・教科書・金属・軍艦・軍刀・結着・孤兒院・行為・公会・交換・鋳業・工業・公使館・国債・脂肪質・司令官・宗教・書籍館・小学校・蒸気車・職工・植民地」などは、日本製漢語とされている。例えば、「価値」は、明治時代の新語で英語 Value の訳語であり、「教科書」も新しく造語され、英語 Text-book の訳語として用いられるようになった。また、「書籍館」は、英語 Library の訳語であり、「書籍局」または「書籍文庫」などの訳語もあったとされている。この「書籍館」は、現在の「図書館」が定着する以前の訳語であったと思われる。当時の韓国語で存在しなかった物や概念を表わす語が多く、これらの語のうち多くを日本語から取り入れているからであろう。これらの「日本製漢語」は、現代韓国語においても使用頻度が高い語である。

#### IV-2) 韓国『国語大辞典』にのみ登載されている語

韓国の辞書に設けられている漢字語が、日本の辞書には見出されない場合も多くあるが、語を上げつつ検討してみる。このグループの語は、漢籍にも典拠がなく、日本語とも共通しない語であって、ほとんどが韓国固有の漢字語に当たるものと思われる。

姑婦、四寸兄、祖上、同壻、男便、愛国歌、愛国忠君、英敏、永滅、堪耐、行習、孝誠、孝鼠、次例、間或、拒逆、苦生、困境、近方、役軍、亦是、至今、追後、受苦、心徳、生覚、性品、祝願、恨嘆、虚事、悔改、凡事、未安、礼智、相距、所致、老論、少論、老少論など。

このように、家族制度・社会倫理・礼儀作法に関する語が多く見られる。それは、韓国人の日常生活に長い歴史を持つ儒教精神によるものではないだろうか。特に、「四寸兄・同壻・男便」などは家族に対する呼称で、現代韓国語でも使用頻度が高く、韓国固有の漢字語である。また、「間或・拒逆・苦生・困境・近方・役軍・亦是・至今・追後・受苦・心徳・生覚・性品・祝願・恨嘆・虚事・悔改・凡事・未安」なども日常生活語としてよく用いられている語である。

格軍、轎軍、大提学、平轎子、文来、都給、使喚、領議政、石手、木手、山蔘、蔘田、箱子、木花、負商・裸負商など。右にあげたように「格軍・大提学・負商・裸負商」などの韓



国の古制度や職業、「山蔘・箱子」などの日常用品の名称も韓国で作り出して用いた語であると思う。また、

此日、此後、是等、其時、其人、其他、其後、不可不冊、不可成、不顧、不拘、不及、不老草、不報、不惜、不衰、不守、不讓、不貪、不賄、不厚、未安、我國、我心など。

これらの語は、「此・其・不・未・我」などの接辞による造語が多く見られることから、前節のⅢ―(2)で述べたことに通じるものと考えられる。日本語の表現で言い換えれば、一つの句や文章に相当し、こういう漢文句的な語の使用の主な原因は、韓国式漢文読み方の棒読みが行われたことにあるのではないだろうか。しかし、現代韓国語では用いられなくなった語が多い。それは、日常生活から漢文が相当離れている現状から生じたことであろうし、言文一致運動による口語の成立過程で、しだいに統合され整理されたのではないかと思う。

前掲のⅣ―(1)に上げた語を韓・日共通の性格をもつ語と言うなら、このグループの語は韓国独自の造語あるいは韓国固有の性格を保っているものと考えられる。

#### Ⅳ―(3)、日本『国語大辞典』にのみ登載されている語

これらの語にあたる語をあげれば、

強剛、検束、敬醒、鼓暢、公效、轟然、眷族、判知、励声などがある。前節のⅢ―(3)に該当する語と同じくわずかな語数であるけれども、現代日本語でもその使用が少ない語である。

#### Ⅳ―(4)、両辞典ともに登載されていない語

中国の古典に典拠のない語で、韓・日両国の辞書に見出しに見られない語もかなりあった。次に力行の一部を掲げてみよう。

可懼、可殺、脚謹、轟聞、思諒、辭遁、索只、挿乱、相覓、上大君主、相樂、商定、筮嚼、席物、水朴、殊盛、瘦衰、星淵、収坎、収陣班師、乘機蹶起、植蜂、慎縫、審視、尋常、双峰駝、暗夜藪中、偃然不動、燃火不絶、熱燒、温良恭贍、揺錘、鎔作、鐘出、蠢蠢不酷、直犯、鉄事、蹴倒、蹴敵、支遁、層生疊出、飽陳、中矢傷目、智成、地下含笑、綿綿不絶、明盲、木事、務業、務行、要念、煉出、庸德、宿德重望、周到鎮密など。

これらのグループの語も、前節のⅢ―(4)に大体近似している。しかし、死語になったと思われる語数が、漢籍に典拠のない語のうち、ほぼ三割(三百八十八語)に至っており前節のⅢ―(4)に比して非常に多い。それは、中国の古典に典拠を持ち、長い生命を保っているものに比べて、韓国あるいは日本で新しく造語されたものが死語となったケースが多いことを物語っている。森岡健二氏は、明治時代、日本語の語彙は著しく変容したと述べている。<sup>(10)</sup>韓国では、開化期に入って社会的に急激な変化が起こり、それに伴って飛躍的多数の新語を生み出したと思われる。換言すれば、新たに作り出された語彙が多かった一方、捨てられてしまった語も相当あったことになるだろう。

このグループで、想定される死語は、次のように考えられる。まず、同義語の競争に敗れたものが上げられる。二語以上併用されている時には、読み難い語あるいは古臭さの残っている語は死語となることが多くなるだろうからである。

もう一つは、意味が曖昧で理解しがたい語、または字画の多い語、字数の多い語であろう。

## V、日本語の関与による漢字語

今回調査した漢字語の中で、日本語が何らかの形で関与した語に、①幕末・明治初期以降、日本において西洋伝来の新しい概念を付与するために用いられた、漢籍に典拠のある「転用語・日本経由語」と、②日本人によって新しく作られた「日本製漢語」とを挙げることができる。このうち漢籍に典拠をもつ「転用語・日本経由語」の場合、日本で訳語などを作るとき古い中国の漢語から語形を持ってきて日本的な意味を持たせたものの、中国由来の語の形や意味を一部変えたものなどがあり一語一語の判断は至難な作業であると思う。それは、韓国で作り出された語が偶然に日本語と一致する場合なども想定できるからである。

## V-1、漢籍に典拠をもつ転用語及び日本経由語

ここでいう「漢籍の転用語」とは、中国の古典に見られる語のうち、西洋伝来の新概念を翻訳するために既成の語形に新し

い概念を結合させる過程で、本来の意味から転じた漢語をいう。本来の漢籍の意とずれている点から「漢籍の転用語」と名づけたが、その転用の度合いによってどこまでを「漢籍の転用語」と認めるかの問題は残る。そのため、幕末・明治初期以降、西洋文献の翻訳に用いた訳語から韓国に入った語、即ち中国独自の日本経由とされる語も含めて抽出した。これらの語を、次に挙げてみる。このうち、日本語では、語の全部または一部が訓読される語で、漢字語形のまま韓国語に移入されたものには、波線を引いた。

(ア)意思、一般、印紙、宇宙、運転、運動、運輸、運用、演説。

(カ)可愛、化学、家庭、火輪車、学科、開化、外交、外国人、

開進、開明、外憂、活字、官員、觀察、勘定、機関、器具、技術、汽船、基礎、規則、貴重、企図、規模、欺罔、記録、教育、教化、矜持、競争、共同、境内、共和、銀行、近世、金銭、金属、苦心、空氣、空想、毛織、經營、經濟、景色、警察、建設、權利、鼓動、公園、交際、公使、公衆、構造、交通、鈎物、國民、国会、國憲、根源。

(サ)雜貨、散布、試験、志士、事實、始終、事情、自然、思想、市民、自由、社会、写真、主權、授業、就学、手段、需用、手腕、書生、所長、商会、蒸氣、商業、書籍、上等、条約、食料、新聞、進歩、人事、人種、人民、隧道、世界、世襲、是非、性、政治、精神、政体、政府、生物、税法、西洋、勢力、石炭、石油、宣告、戰時、船長、船頭、煽動、先生、



選択、善良、増加、裝飾、相對、総理。

(タ)大概、大学、大元帥、体制、大兵、知覚、地方、注意、注射、追及、通信、帝国、鉄橋、伝染、時計、奴隷、当然、道徳、動物、道理、土人、特別、独立。

(ナ)日本、人間。

(ハ)排斥、発見、発達、発明、範圍、判決、比較、費用、美妙、武器、不便、物色、物件、文化、文学、分数、分析、文法、文明、兵士、平民、平和、保険、冒險、保養、妨害、方向、方法、貿易、法律。

(マ)毎朝、毎年、未決、無心、命令、模様、蜜蜂。

(ヤ)夜学、約束、輸運、遊戲、養生。

(ラ)力学、列国、労働。

これらの漢語の中には、勿論古くから日本に入っていたものもあるが、古くからあったといえども、たとえば、「教化」「文学」「文法」などのように古い時代の意味が新しく鑄造されたものが少なくないであろう。<sup>1)</sup>これが日本独自の使用であり、その使用が韓国に入ってきてそのまま用いられることになったのであろう。

## V-2、日本製漢語

幕末・明治初期以降、日本人によって新語、訳語として考案されたものがある。これらの日本製漢語が韓国語に入ったデータは、今のところはつきり分からないということである。日本

国内でも日本製漢語の研究がまだ充分とはいえないことなどから、そのデータを明らかにすることは現段階では難しい。ここでは、今回のテキストとした開化期教科書の6種から抽出した漢語の中で、日本製漢語と確定できるものをあげてみる。

(ア)愛惜、压制、暗室、医員、依頼、飲料、運河、温度。

(カ)価値、火輪船、改良、各種、各地、各部、看過、関係、間接、勘当、議員、議院、稀薄、義務、虐待、距離、居留、教科書、教師、強制、協力、共和国、軍歌、軍艦、軍刀、軍服、血液、結着、原因、健康、元素、建築、建築業、建築費、孤兒院、行為、公会、交換、工業、鋳業、幸福、国債、公使館、構成、鋳物。

(サ)産出、酸素、時間、時限、自主、脂肪質、資料、司令官、実業、実地、宗教、重大、書籍館、小学校、蒸気車、償金、証書、商品、商事、条約国、条約書、職工、植民地、征服、製鉄、製鉄業、絶対、説明、船舶、総理大臣。

(タ)打球、大学校、大統領、団体、炭酸、炭素、炭鉄、炭化、蛋白質、直接、中学校、停車場、電線、伝染病、独立国。

(ナ)内閣、入港、人力車、熱度。

(ハ)博奕、白墨、発売、備考、必要、品質、物質、物品、文学士、蔑視、編成、捕鯨、放射、放送、包装、膨脹。

(マ)目的。

(ヤ)夜間、野蛮、野蛮人、遊園、遊戲、郵便局、与党。

(ラ)羅針盤、理学、老人院。

(ワ)矮小。

上に掲げた「日本製漢語」の特徴は、前掲の「転用語」に比べ機関や施設の名が多く、三字漢語が相当見られることである。ここで、三字漢語による造語の方法は、日本的な特色の一つであると言えるだろう。この三字漢語は、「火輪船・教科書・共和国・司令官・書籍館」などのように「〇〇+〇」型が多く見られる。

以上挙げた語は、現在まで調べた範囲で判断したもので、今後の調査によってはそのデータが多少変わるだろう。これらの「漢籍の転用語」や「日本製漢語」の韓国への流入は、近代に入ってからのことである。富国強兵の方策を求めて日本に渡った韓国人留学生たちは、その翻訳や社会活動において、日本の新語、訳語をそのまま借用した可能性が高い。それは両国とも「漢字文化圏」に属しているからこそ可能であったことではないだろうか。

森岡健二氏は、日本の開化期翻訳書の用語を検討され、あらゆる専門分野で専門用語の確定に努めたことが、日本の近代化を著しく早めた原因になったであろうと述べている。<sup>(12)</sup>氏が述べている「国の近代化」との関連性に関しては、上に挙げた「日本語の関与による漢字語」にも相当共通点が窺える。

## VI、使用率について

次に今回調査した漢字語の使用率を見る。使用度数十四以上

の語が八十二語ある。その使用率の高い順に上位八十二語を挙げると表へ1になる。なお、使用率は%である。

表へ1のデータから特徴的なことを挙げると、第一に韓国・日本両辞典に搭載されている語が七十一語で約八十七%を占める。両国において使用の多い漢字語は、両国同語形の語が多いことが言える。<sup>(13)</sup>

労働、父母、独立、百姓、万一、人民、世界、権利、天下、第一、外国、大概、女子、約束、職業、同胞、地境、清潔、自由、軍士、人君、自然、学問、兄弟、先生、国家、各国、文明、勇猛、植物、臣下、社会、義務、学校、道德、縁故、君子、道理、富强、農夫、恭敬、陸地、無識、動物、工夫、万国、縁由、指点、地方、農事、他国、一日、知識、種類、真実、即今、恒常、往来、飲食、空氣、全国、陛下、氣運、他人、事業（以上、漢籍・仏典漢訳に典拠のある語）

物件、時間、舅姑、元素、炭酸、各色（以上、漢籍・仏典漢訳に典拠の見えない語）

第二は、使用率の高い語の場合、前節で述べた「日本語の関与」による語が多いことである。

労働、独立、人民、世界、物件、権利、約束、時間、自由、自然、先生、文明、元素、社会、義務、道德、道理、炭素、動物、地方、時計。

このように、使用率の上位の語に日本語の関与による語の多いことは、韓国開化期の教科書の一つの性格に深く関わっている。

表〈1〉 使用率上位の語のデータ

| 順位 | 見出し語 | 使用度数 | 使用率  | 順位 | 見出し語 | 使用度数 | 使用率  | 順位                          | 見出し語 | 使用度数 | 使用率  |
|----|------|------|------|----|------|------|------|-----------------------------|------|------|------|
| 1  | 労働   | 80   | 0.79 |    | 自然   | 24   | 0.24 |                             | 動物   | 16   | 0.16 |
| 2  | 世上   | 72   | 0.71 | 30 | 学問   | 23   | 0.23 |                             | 工夫   | 16   | 0.16 |
| 3  | 父母   | 48   | 0.48 |    | 兄弟   | 23   | 0.23 |                             | 万国   | 16   | 0.16 |
| 4  | 独立   | 45   | 0.45 |    | 先生   | 23   | 0.23 |                             | 縁由   | 16   | 0.16 |
| 5  | 百姓   | 43   | 0.43 | 33 | 国家   | 22   | 0.22 | 61                          | 指点   | 15   | 0.15 |
|    | 万一   | 43   | 0.43 |    | 各国   | 22   | 0.22 |                             | 地方   | 15   | 0.15 |
| 7  | 児孩   | 41   | 0.41 | 35 | 文明   | 21   | 0.21 |                             | 農事   | 15   | 0.15 |
| 8  | 人民   | 39   | 0.39 |    | 勇猛   | 21   | 0.21 |                             | 他国   | 15   | 0.15 |
| 9  | 世界   | 38   | 0.38 |    | 元素   | 21   | 0.21 |                             | 一日   | 15   | 0.15 |
| 10 | 物件   | 36   | 0.36 |    | 植物   | 21   | 0.21 |                             | 知識   | 15   | 0.15 |
| 11 | 権利   | 34   | 0.34 | 39 | 汝等   | 20   | 0.20 |                             | 種類   | 15   | 0.15 |
| 12 | 天下   | 33   | 0.33 |    | 臣下   | 20   | 0.20 |                             | 真実   | 15   | 0.15 |
| 13 | 第一   | 32   | 0.32 |    | 社会   | 20   | 0.20 |                             | 即今   | 15   | 0.15 |
| 14 | 外国   | 30   | 0.30 |    | 義務   | 20   | 0.20 |                             | 各色   | 15   | 0.15 |
|    | 大概   | 30   | 0.30 |    | 学校   | 20   | 0.20 |                             | 行実   | 15   | 0.15 |
| 16 | 女子   | 29   | 0.29 |    | 是故   | 20   | 0.20 |                             | 恒常   | 15   | 0.15 |
|    | 約束   | 29   | 0.29 | 45 | 道德   | 19   | 0.19 |                             | 往来   | 15   | 0.15 |
| 18 | 職業   | 28   | 0.28 |    | 縁故   | 19   | 0.19 |                             | 飲食   | 15   | 0.15 |
|    | 同胞   | 28   | 0.28 | 47 | 生覚   | 18   | 0.18 | 75                          | 空気   | 14   | 0.14 |
| 20 | 男便   | 27   | 0.27 |    | 君子   | 18   | 0.18 |                             | 全国   | 14   | 0.14 |
|    | 時間   | 27   | 0.27 | 49 | 道理   | 17   | 0.17 |                             | 模様   | 14   | 0.14 |
| 22 | 我国   | 25   | 0.25 |    | 炭酸   | 17   | 0.17 |                             | 陛下   | 14   | 0.14 |
|    | 地境   | 25   | 0.25 |    | 富強   | 17   | 0.17 |                             | 気運   | 14   | 0.14 |
|    | 清潔   | 25   | 0.25 |    | 農夫   | 17   | 0.17 |                             | 他人   | 14   | 0.14 |
|    | 自由   | 25   | 0.25 |    | 至今   | 17   | 0.17 |                             | 事業   | 14   | 0.14 |
|    | 軍士   | 25   | 0.25 |    | 恭敬   | 17   | 0.17 |                             | 時計   | 14   | 0.14 |
| 27 | 舅姑   | 24   | 0.24 | 55 | 陸地   | 16   | 0.16 | ※百分率は少数点二桁まで示し、それ以下は四捨五入とした |      |      |      |
|    | 人君   | 24   | 0.24 |    | 無識   | 16   | 0.16 |                             |      |      |      |

表〈2〉累積使用率のデータ

| 上位の語数 | 累積度数  | 累積使用率% |
|-------|-------|--------|
| 50    | 1,434 | 14.22  |
| 100   | 2,149 | 21.31  |
| 150   | 2,674 | 26.52  |
| 200   | 3,094 | 30.68  |
| 250   | 3,709 | 36.78  |
| 300   | 4,160 | 41.25  |
| 400   | 4,763 | 47.23  |
| 500   | 5,092 | 50.50  |

ここまで述べてきた、漢字語の出自別分布を整理すれば、表へ3〉のデータとこれまで述べてきたことを合わせて分析すれば、次のようにまとめることができる。

①まず、漢籍・漢訳仏典に典拠を持つ語の場合、韓国・日本の両辞典に見出される語が八割を越え、非常に高い割合を示している。所謂漢字文化圏に属する韓・日両国語は、長い間中国との人的・物的・文化的交流に従い、語彙面においても中国の影響を大いに受けたからであろう。

ることを物語っていると思う。

また、表へ2〉は漢字語の使用度数の累計が全体に占める割合を示したもので、上位百語で五分の一を占め、五百語で二分の一を占める。

## VII、結び

表〈3〉出自別分布

| 韓・日辞典<br>漢籍典拠    | 韓・日両辞<br>典に登載   | 韓国の辞典<br>にのみ登載 | 日本の辞典<br>にのみ登載 | 両辞典とも<br>に不載   | 計                |
|------------------|-----------------|----------------|----------------|----------------|------------------|
| 漢籍・漢訳仏典<br>に典拠あり | 2487<br>(80.36) | 439<br>(14.18) | 24<br>(0.78)   | 145<br>(4.68)  | 3095<br>(100.00) |
| 漢籍・漢訳仏典<br>に典拠不明 | 457<br>(32.27)  | 525<br>(37.08) | 17<br>(1.20)   | 417<br>(29.45) | 1416<br>(100.00) |
| 計                | 2944<br>(65.26) | 964<br>(21.37) | 41<br>(0.91)   | 562<br>(12.46) | 4511<br>(100.00) |

②漢籍・漢訳仏典に典拠の不明な語は、韓・日共通登載率が約三割に過ぎない反面、韓国の辞書にのみ見られる語または死語となった語の比率が高い。これらの中国の古典に典

拠のない語は、韓国独自の漢字語が多く、また一時的な使用の語も相当あったのではないかと思われる。

③韓国固有漢字語と見た語には、家族制度・社会倫理・礼儀作法に関する語が多く、また、韓国人の日常生活語と見られる語が多かった。

④日本語の関与による語は、その使用度数の上位の語が多い。

また、これらの日本語の関与の語によって、韓国語と日本語には同じ語形の語が多くなった面もあると思われる。前項③に比べて、これらの語は、文明開化にともない、新しい概念を表わす専門用語が多い。言うまでもなく日本の「近代化」を模範とする韓国の文明開化という社会的啓蒙にともなう変遷過程において、言語の借用という現象が起きたと思われる。日本語の関与による「新漢語」が、所謂「漢字文化圏」に果たした役割は非常に大きいのである。

上に述べたような結果は、漢字を仲立ちとして互いに通じる、漢字文化圏の言語だからこそ可能なものではないかとも考えられる。今回のような研究は、韓国語の歴史を考えるうえでも重要な意味を持つと思うのである。特に、近代以降の韓国語の語彙史の研究において日本語から借用の問題を提起したのも、極めて最近のことであり、まだまだ充分ではないと感じられる。今後、この期の語彙研究が開拓されることを期待したい。

## 注

(1) 本稿でいう「漢字語」とは「漢字で表記でき、韓国漢字音で読む語」の意味である。日本語では、語の全部または一部が訓読みされる「蜜蜂(ミツバチ)」「毛織(ケオリ)」なども、韓国語では、音読みされている。そこで「漢字で表記でき、韓国漢字音で読む語」を広く「漢字語」と呼ぶことにした。

(2) また、これらの典拠の認定については、諸橋轍次氏著『大漢和辞典』のほか、森岡健二氏著『改訂近代語の成立 語彙編』、佐藤 亨氏編『近代語彙の研究』、『幕末・明治初期語彙の研究』などで調べられたものを参考した。

(3) ここで、「漢籍の転用語」とは、漢籍に用例のある語に新しい意味を付与した類のうち、日本でその新しい意味が付与され、韓国でも使われている語をいうのである。例えば、「化学」などの語は、中国の古典に典拠をもつ語で、化学の名に落ち着くまで変転を重ね、現在使われている意味となった。このような語を「日本製漢語」と区別して「漢籍の転用語」と呼ぶことにする。

(4) 「日本経由語」とは、注(2)の如く漢籍に存する語で、幕末・明治初期に翻訳書の訳語で用いられ、それが日本から韓国に入ってきたと思われる語を言う。

(5) 進藤咲子氏『明治時代語の研究 語彙と文章』(明治書院、昭和五十六年)。三二ページ。

(6) これらの語は、中国の古典に典拠のあるとは言え、意味的に「転用」の見られる語である。次に、その例を掲げておく。

| 語例 | 韓国語の意   | 漢籍・仏典漢訳の意          |
|----|---|--------------------|
| 当身 | 同等ノ相手ニ対スル呼称。<br>目上の相手ヲ敬ッテイウ<br>第三人称代名詞。夫婦ノ<br>間デ相手ヲ指ス語。 | 自身、カラダ、肉体ソノ<br>モノ。 |
| 食口 | 家族。   | 人口、口数。             |
| 同生 | 弟、妹。  | 父ヲ同ジクスル者、兄弟。       |

(7) 兪吉濬氏の『労働夜学読本』では、「我家・我身」などの語に韓国語による訓読みのルビが見られるが、他の五種の教科書には全く見られない。それは訓読みが一般化に至ることができず一時的現象にとどまり、音読みの方が原則であったと考えられ、今回の調査範囲に含めた。

(8) 拙稿「韓国語における日本渡来の外來語」〔解釈〕昭和五十三年五月号〕を参照されたい。

(9) これらの「韓国製漢字語」と思われる語の意味を挙げてみる。

四寸兄↓従兄。同増↓相婿・義兄弟ヤ相嫁。男便↓夫・亭主。間或↓時折・タマニ。拒逆↓命令ニ逆ラウコト。苦生↓苦勞・困苦。困境↓苦境。近方↓近所。役軍↓人手・有為ノ人材。亦是↓ヤハリ・ナオ。至今↓昔カラ今ニ至ルマデ。追後↓過ぎ去ッテカラ後。受苦↓苦勞。心徳↓広クテ易シイ氣立テ。生覺↓思イ・考エ。性品↓性質ト品格・性分。祝願↓神

仏ニ願イノ成就ヲ祈ルコト。恨嘆↓恨ミ嘆クコト。虚事↓無駄・待事。悔改↓悔イ改メルコト。凡事↓総ベテノコト。未安↓済マナイト思ウコト。

(10) 森岡健二氏『改訂近代語の成立 語彙編』（明治書院、昭和四十四年）。二二ページ。

(11) 例えば、「文学」は漢籍に典拠があり、また日本の古典『懷風藻』『神皇正統記』などで、「学芸・学問・学問ヲスルコト」などの意味で用いられているが、「詩歌・戯曲・小説ナド文学作品ヲ研究スル学問」との意では、幕末・明治初期以降である。

この「転用」については、注(10)同書に次のような記述がある。「訳語にとって、在来語が重要な資源であったにせよ、新しい文物が怒濤のように押し寄せて、日本の制度・文化・思想が急激な変化を始めた時代には、到底、在来語ばかりに依存するわけにはいかない。一応は在来語で置き換えてみたとしても、外国の事情が判明して、そのずれが意識されてくると、これを新たな語に改める必要も生じたであろう。ここに転用は、その新語生産の一つの方法だ」とある。二五一ページ。

また、飛田良文氏は、「新語という」と、我々は語形の新しい語すなわち新しく造語した語と考えることが多い。しかし、在来語の意味に新しい意味が付加された転用語の類も新語である。この類の新語は大部分が漢語で、翻訳が契機となって誕生しているところに特色がある。例えば、暗転・意識・異性・印象・印税・映画・演繹・階級・郵便などで、その数も多い」と述べている。〔東京語成立史の研究〕五三一ページ〕

(12) 森岡健二氏「開化期教科書の語彙」〔講座日本語の語彙

第6巻 近代の語彙』明治書院、昭和五十七年）を参照された  
い。

(13) 「労働」は、「労働」(働)は日本製漢字で、韓国では「動」  
が使われている)であるが、意味が一致するので、今回の調査  
では同形語の中に含めた。

#### 引用参考文献一覧

- ① 諸橋轍次『大漢和辞典』(大修館書店、昭和四十三年第二刷)
- ② 諸橋轍次・鎌田 正・米山寅太郎『広漢和辞典』(大修館書店、  
昭和五十六年初版第二刷)
- ③ 李 熙昇編『国語大辞典』(民衆書林、一九八二年)
- ④ 尚学図書編『国語大辞典』(小学館、昭和五十六年)
- ⑤ 山田孝雄『国語の中に於ける漢語の研究』(宝文館、昭和十五年  
刊、昭和三十三年訂正版)
- ⑥ 樺島忠夫・飛田良文・米川明彦編『明治・大正新語俗語辞典』  
(東京堂出版、昭和五十九年)
- ⑦ 惣郷正明・飛田良文『明治のことば辞典』(東京堂出版、一九八  
九年再版)
- ⑧ 森岡健二『改訂近代語の成立 語彙編』(明治書院、昭和四十四  
年)
- ⑨ 森岡健二『開化期翻訳書の語彙』(講座日本語の語彙 第6巻  
近代の語彙)明治書院、昭和五十七年)
- ⑩ 拙稿「韓国語における日本渡来の外來語」(『解釈』昭和五十三  
年、九月号)
- ⑪ 佐藤喜代治『国語語彙の歴史的研究』(明治書院、昭和四十六

年)

⑫ 佐藤 亨『近世語彙の研究』(桜楓社、一九八三年)

⑬ 佐藤 亨『幕末・明治初期語彙の研究』(桜楓社、昭和六十  
一年)

⑭ 佐藤 亨『近代語の成立』(桜楓社、平成二年)

⑮ 進藤咲子『明治時代語の研究 語彙と文章』(明治書院、昭和五  
十六年)

⑯ 飛田良文『東京語成立史の研究』(東京堂出版、平成四年)

⑰ 飛田良文『訳語研究の視点』(『国語学』昭和五十三年十二月)

⑱ 鈴木修次『嚴復の訳語と日本の『新漢語』』(『国語学』昭和五十  
八年三月)

⑲ 川口二三世『明治初期の西洋法律書の翻訳』(『国語国文』平成  
六年十二月)



付録「漢字語一覽表」

開化期教科書における漢字語

1. 國民小學讀本（學部 編纂 一八九五年）
2. 小學 讀本（學部 編纂 一八九五年）
3. 新訂尋常小學（學部 編纂 一八九六年）
4. 幼年 必讀（玄 采 著 一九〇七年）
5. 初等女學讀本（李源兢 著 一九〇八年）
6. 勞動夜學讀本（俞古濬 著 一九〇八年）

● 漢字語一覽表について

- ① この一覽表は、上掲の韓国の開化期教科書の6種を刊行年度順に作成したものである。
- ② 教科書別の全異なり語を韓国語の字母順（日本語でいう「五十音順」に相当する）に配列したものである。
- ③ 漢字表記においては、原文の表記を尊重し、旧字（韓国では普通旧字が使用されている）をそのまま表記することにした。

| 學部 編纂 國民小學讀本（一八九五年） |    |    |     |      |    |    |    |    |      |
|---------------------|----|----|-----|------|----|----|----|----|------|
| 間接因                 | 艱難 | 看過 | 各處  | 各地   | 各種 | 各自 | 各樣 | 恪守 | 各色   |
| 蓋印                  | 改悟 | 開語 | 蓋尾  | 開物成務 | 改良 | 概略 | 開達 | 開國 | 講和   |
| 見奪                  | 堅守 | 堅牢 | 堅剛  | 擊破   | 激戰 | 隔壁 | 檄文 | 隔隣 | 傑然   |
| 階落                  | 鷄犬 | 驚喜 | 硬皮  | 輕便   | 驚破 | 警察 | 輕艇 | 競爭 | 耕作   |
| 攻擊                  | 骨質 | 昆蟲 | 穀倉  | 故鄉   | 苦學 | 膏脂 | 古人 | 雇用 | 古昔   |
| 跨連                  | 過多 | 公會 | 共和國 | 共和   | 供花 | 公平 | 空地 | 空中 | 工錢   |
| 橋梁                  | 轟然 | 轟揚 | 轟聞  | 宏大   | 愧服 | 廣闊 | 廣狹 | 廣齒 | 廣地   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 匡正   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 光陰   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 鑛業   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 鑛物   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 廣大   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 光景   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 廣街   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 寬弘大度 |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 貫徹   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 觀察   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 冠絕   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 官員   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 冠晚   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 關係   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 灌漑   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 果皮   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 果然   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 課業   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 果實   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 鞏固   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 空過   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 工巧   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 空球   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 空氣   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 功烈   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 恐迷   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 工蜂   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 工夫   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 公使   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 空想   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 攻城   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 攻城守戰 |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 恐悚   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 控制   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 顧慮   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 孤立   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 枯木   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 告文   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 高山峻嶺 |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 工場   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 孔前   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 工錢   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 空中   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 廣地   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 廣齒   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 廣狹   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 廣闊   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 愧服   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 宏大   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 轟聞   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 轟揚   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 轟然   |
|                     |    |    |     |      |    |    |    |    | 橋梁   |



|     |     |     |    |      |    |    |      |      |     |      |      |     |    |    |      |     |    |     |      |     |      |    |     |    |     |     |     |    |
|-----|-----|-----|----|------|----|----|------|------|-----|------|------|-----|----|----|------|-----|----|-----|------|-----|------|----|-----|----|-----|-----|-----|----|
| 驕慢  | 教師  | 交易  | 郊外 | 教育   | 教義 | 交戰 | 交際   | 交通   | 交換  | 教訓   | 購來   | 區別  | 具備 | 樞上 | 構成   | 口實  | 驅我 | 救援  | 狗肉   | 舊恩  | 口低   | 構造 | 口唱  | 國家 | 國旗  | 國內  | 國民  | 國勢 |
| 國王  | 國外  | 國用  | 國人 | 國政   | 國債 | 國恥 | 國憲   | 國號   | 國會  | 軍器   | 軍隊   | 君德  | 軍鋒 | 軍士 | 君子   | 君主  | 群集 | 群聚  | 掘起   | 掘身  | 屈指   | 掘出 | 掘穴  | 窮究 | 宮前  | 宮殿  | 權利  |    |
| 卷鬚  | 眷愛  | 眷族  | 潰決 | 鬼域   | 貴人 | 貴族 | 貴重   | 貴賤   | 歸航  | 規則   | 極難   | 極力  | 劇務 | 極便 | 近來   | 勤勞  | 勤勉 | 近方  | 近因   | 近日  | 近處   | 勤學 | 金剛石 | 今年 | 金屬  | 禽獸  | 金時代 | 金銀 |
| 今日  | 金錢  | 今化物 | 急遽 | 急務   | 氣概 | 器械 | 器械   | 器械類  | 機關  | 紀年   | 企圖   | 記錄  | 期望 | 羈絆 | 起伏   | 紀事  | 汽船 | 寄宿舍 | 記述   | 氣息  | 基業   | 器用 | 氣運  | 紀元 | 紀元前 | 奇異  | 基礎  | 氣候 |
| 緊要  | 緊切  | 羅針盤 | 絡繹 | 暖房   | 卵生 | 南端 | 襪樓   | 南方   | 南北  | 南下   | 納稅   | 朗讀  | 來歸 | 來年 | 來翔   | 內外  | 來日 | 內治  | 來侵   | 冷却  | 冷血   | 老驅 | 老農  | 老農 | 勞動  | 努力  | 老母  | 勞費 |
| 奴婢  | 路上  | 魯愚  | 老人 | 怒吼   | 綠葉 | 論告 | 論駁   | 論說   | 論罪  | 農家   | 農夫   | 農事  | 農產 | 農業 | 濃厚   | 凌辱  | 陵夷 | 凌逼  | 泥工   | 茶褐色 | 多年   | 多量 | 多少  | 多數 | 多言  | 多元素 | 單塊  | 斷念 |
| 短尾  | 蛋白質 | 單峰駝 | 壇上 | 鍛冶   | 斷然 | 短艇 | 短銃   | 短觀   | 擔當  | 啖肉獸  | 擔任   | 淡黑  | 答禮 | 當時 | 當然   | 大家  | 大概 | 待客  | 大功   | 大橋  | 大國   | 大氣 | 大動物 | 對等 | 大路  | 大理石 | 大小  | 大勝 |
| 大臣  | 大洋  | 大業  | 大王 | 大將   | 大戰 | 大禮 | 大治   | 大統領  | 大破  | 大敗   | 大學   | 大學校 | 德行 | 到達 | 道德   | 道路  | 塗漫 | 逃亡  | 圖謀   | 塗褻匠 | 都府   | 都城 | 圖式  | 跳躍 | 盜賊  | 到處  | 都會  | 獨立 |
| 獨立國 | 讀本  | 讀書  | 督戰 | 篤志   | 頓注 | 突進 | 突衝   | 銅鑛   | 東南  | 同盟   | 同盟軍  | 動物  | 東方 | 東北 | 東西   | 東西  | 同乘 | 東洋  | 同然   | 童子  | 東戰西擊 | 冬節 | 東天  | 東風 | 洞穴  | 頭腦  | 鈍金  | 遁逃 |
| 鈍刀  | 屯駐  | 得宜  | 燈籠 | 牢硬   | 隣邦 | 鱗族 | 磨鍊   | 馬蹄   | 馬車  | 漠漠不見 | 漠漠蔽天 | 萬古  | 萬國 | 萬近 | 滿堂   | 滿面  | 萬物 | 萬般事 | 萬般什物 | 萬事  | 萬象   | 萬世 | 漫然  | 萬一 | 漫定  | 滿足  | 晚餐  | 每年 |
| 賣買  | 每勝  | 每日  | 每戰 | 每戰每敗 | 盟誓 | 猛獸 | 勉勵   | 綿綿不絕 | 面積  | 勉從   | 免脫   | 滅亡  | 蔑視 | 明盲 | 命門   | 明白  | 銘心 | 名言  | 貌樣   | 茅屋  | 母親   | 冒險 | 模糊  | 模石 | 木手  | 木匠  | 木造  | 木柵 |
| 木花  | 無端  | 無比  | 無算 | 無數   | 無識 | 無心 | 務業   | 貿易   | 貿易場 | 武藝   | 無用   | 無義  | 無異 | 無益 | 無人之境 | 無智者 | 文教 | 文明  | 文武   | 門衛  | 文字   | 文化 | 物件  | 勿論 | 物產  | 物情  | 物質  | 物體 |
| 物貨  | 未決  | 美觀  | 未幾 | 美麗   | 尾匠 | 微風 | 微黃色毛 | 民力   | 民兵  | 敏速   | 民壯   | 密雲  | 博士 | 泊船 | 博識者  | 迫接  | 反擊 | 半球  | 半島   | 班師  | 頒布   | 頒行 | 發見  | 發明 | 邦國  | 方今  | 放射  | 防敵 |

|     |      |    |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |     |      |    |     |    |     |    |      |    |     |     |    |    |     |     |     |    |
|-----|------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|-----|------|----|-----|----|-----|----|------|----|-----|-----|----|----|-----|-----|-----|----|
| 妨害  | 方向   | 倣華 | 背叛 | 培養 | 背出 | 徘徊 | 背後  | 白旗  | 白銅  | 白墨 | 百般 | 煩劇 | 蕃民  | 繁盛   | 繁殖 | 繁榮  | 煩雜 | 醵弔  | 繁華 | 泛濫   | 帆船 | 帆船  | 法律  | 劈造 | 邊境 | 變種  | 變遷  | 變化  |    |
| 竝肩  | 兵結不解 | 兵器 | 併略 | 兵力 | 併立 | 兵柄 | 兵士  | 兵船  | 病身  | 兵役 | 併用 | 病人 | 兵丁  | 兵制   | 保命 | 寶物  | 寶石 | 報酬  | 保全 | 補助   | 補助 | 輔助  | 保支  | 寶貝 | 保險 | 保護  | 覆滅  | 服役  | 複雜 |
| 服從  | 覆沈   | 本國 | 本府 | 倖金 | 倖起 | 奉戴 | 倖祿  | 蜂房  | 封鎖  | 奉遵 | 富強 | 賦課 | 不關  | 扶老契幼 | 不動 | 不同  | 埠頭 | 部落  | 父母 | 計聞   | 浮費 | 賦稅  | 扶植  | 賦與 | 富榮 | 富源  | 夫人  | 婦人  |    |
| 富者  | 部長   | 不絕 | 不足 | 部族 | 附着 | 父親 | 副統領 | 部下  | 富豪  | 附會 | 北東 | 憤怒 | 分隊  | 分量   | 分離 | 奮發  | 分析 | 分數  | 分與 | 盆栽   | 奮戰 | 不過  | 不毛  | 不變 | 不守 | 不讓  | 不然  | 不用者 |    |
| 砂礫  | 司令官  | 四隣 | 土馬 | 駟馬 | 沙漠 | 四面 | 事務  | 事物  | 四方  | 思想 | 沙上 | 書手 | 使臣  | 事實   | 飼養 | 事業  | 使役 | 使用  | 師友 | 事爲   | 死者 | 事情  | 四肢  | 社稷 | 辭職 | 寫眞  | 伺察  | 寺刹  |    |
| 寫出  | 砂糖   | 四海 | 社會 | 山逕 | 山脈 | 散附 | 散索  | 酸素  | 算數  | 山岳 | 山野 | 山積 | 山頂  | 山利   | 山川 | 產出  | 散布 | 山下  | 山河 | 森林   | 相見 | 商賈  | 商工  | 相關 | 償金 | 上納  | 相對  | 上途  |    |
| 上騰  | 相樂   | 商務 | 尙武 | 相反 | 上部 | 商事 | 商船  | 詳述  | 上昇  | 常食 | 相語 | 商業 | 相依  | 相議   | 傷者 | 相接  | 上帝 | 上中下 | 上唇 | 上層   | 相親 | 商品  | 上下  | 商會 | 相會 | 商會館 | 生徒  |     |    |
| 生命  | 生死   | 生涯 | 生業 | 生存 | 逝去 | 西門 | 西方  | 西邊  | 西北  | 書上 | 西岸 | 西洋 | 西洋曆 | 筮噲   | 書籍 | 書籍館 | 西征 | 西進  | 西行 | 西向   | 石器 | 石手  | 石時代 | 席匠 | 石材 | 石灰  | 石灰石 |     |    |
| 石灰水 | 石胸油  | 船客 | 宣告 | 船頭 | 船船 | 船室 | 船將  | 船長  | 先進國 | 船隻 | 船側 | 選擇 | 善行  | 說明   | 設置 | 城郭  | 城頭 | 成立  | 姓名 | 性命   | 聲明 | 城門  | 城市  | 聖神 | 聖人 | 城鎮  | 性質  | 成就  |    |
| 性品  | 城下   | 盛行 | 聖賢 | 世界 | 細管 | 世道 | 勢力  | 稅法  | 世上  | 細小 | 細瘦 | 世襲 | 歲月  | 世人   | 小孔 | 所關  | 小狗 | 小國  | 小童 | 小動物  | 所賴 | 消滅  | 所務  | 所部 | 所產 | 小屋  | 逍遙  |     |    |
| 所用  | 所謂   | 消日 | 所長 | 小戰 | 小艇 | 小鳥 | 小學  | 小學校 | 疏忽  | 消火 | 召還 | 屬地 | 損傷  | 衰憊   | 衰弱 | 衰殘  | 收坎 | 修交  | 數多 | 手段   | 隧道 | 水量  | 酬勞金 | 修理 | 水滿 | 水面  | 樹木  | 水邊  |    |
| 修補  | 水夫   | 首府 | 水師 | 受傷 | 水上 | 守成 | 殊盛  | 輸送  | 受熱  | 手腕 | 需用 | 獸肉 | 樹陰  | 輸入稅  | 手足 | 手中  | 水中 | 樹枝  | 樹脂 | 收陣班師 | 收集 | 輸出入 | 水筒  | 水孚 | 修學 | 修好  | 數交  |     |    |

|      |      |      |     |      |      |      |     |     |      |      |     |
|------|------|------|-----|------|------|------|-----|-----|------|------|-----|
| 宿德重望 | 食糧   | 俄國   | 業務  | 連合   | 吾家   | 外夷   | 運用  | 威勢  | 遺骸   | 議戰   | 印稅法 |
| 熟思   | 食料   | 我等   | 餘暇  | 燃火   | 吾登   | 外征   | 運河  | 偉人  | 柔和   | 議定   | 人心  |
| 熟視   | 植物   | 我輩   | 旅客  | 燃火不絕 | 午後   | 要緊   | 鬱蔥  | 慰藉  | 硫黃   | 意嚮   | 仁義  |
| 鈍金   | 食物   | 掠奪   | 旅館  | 列國   | 屋裏   | 饒富   | 雄略  | 偉丈夫 | 遊戲   | 以德報怨 | 人智  |
| 純粹   | 植民地  | 鴉片   | 汝等  | 熱國   | 屋上   | 饒足   | 雄蜂  | 偽造  | 肉塊   | 以來   | 印紙  |
| 崇尚   | 植蜂   | 兒孩   | 如雷  | 熱氣   | 沃野   | 搖錘   | 雄視  | 危險  | 戮力   | 耳目   | 咽喉  |
| 襲擊   | 神歌   | 惡習   | 與否  | 熱帶   | 屋頂   | 燎火烘天 | 遠近  | 有光  | 肉類   | 以上   | 咽   |
| 習子   | 新開   | 眼光   | 勵聲  | 熱度   | 溫暖   | 用力   | 園內  | 儒教  | 陸上   | 異常   | 一家  |
| 乘機蹶起 | 紳重   | 兩邊   | 旅裝  | 熱量   | 溫度   | 勇剛果敢 | 元來  | 流動  | 陸地   | 移植   | 一個  |
| 僧徒   | 神靈   | 兩棲   | 如何  | 熱病   | 溫言   | 勇猛   | 怨望  | 流動  | 陸地   | 利用   | 日光  |
| 勝利   | 臣民   | 鞍粧   | 女皇  | 悅服   | 溫容   | 容貌   | 圓明園 | 遊獵者 | 倫紀   | 利益   | 一國  |
| 勝戰   | 身邊   | 安全   | 役軍  | 熱燒   | 溫和   | 勇兵   | 元素  | 蹂躪  | 融滑   | 夷狄   | 一潰  |
| 昇進   | 新鮮   | 眼前   | 歷代  | 熱心   | 擁衛   | 勇奮   | 原野  | 遊牧  | 飲食   | 以粗抗精 | 一歸  |
| 市街   | 身體   | 安置   | 役事  | 念慮   | 完結   | 用心   | 怨言  | 有無  | 凝結   | 移住   | 一團  |
| 時刻   | 臣下   | 巖石   | 緣故  | 染料   | 完全   | 容易   | 原由  | 遺芳  | 凝視   | 以下   | 一代  |
| 時間   | 新化合物 | 暗夜數中 | 研究  | 恬然不顧 | 王國   | 鎔作   | 園有  | 柔弱  | 應用   | 益己利人 | 一帶  |
| 時計   | 失計   | 愛國   | 煉金家 | 獵場   | 往來   | 勇將   | 原因  | 紐約  | 意氣   | 翌年   | 一列  |
| 施德布恩 | 失道缺德 | 愛國心  | 連互  | 葉質   | 往復   | 勇進   | 遠因  | 紐約府 | 義氣   | 益甚   | 一物  |
| 是等   | 實狀   | 哀悼   | 聯隊  | 獵取   | 旺盛   | 勇進   | 園丁  | 遺言  | 義論   | 翌月   | 一般  |
| 市民   | 失宜   | 愛讀   | 烟突  | 永訣   | 王政   | 熔鐵所  | 遠行  | 遺言  | 義兵   | 人家   | 一部  |
| 時勢   | 實地   | 愛玩   | 聯絡  | 英邁   | 王統   | 牛馬   | 圓形  | 柔軟  | 衣服   | 人間   | 一生  |
| 始作   | 實踐   | 崖下   | 演說  | 領事館  | 王后將相 | 寓宿   | 圓形  | 游泳  | 衣食   | 人傑   | 一世  |
| 時節   | 尋求   | 愛護   | 連續  | 營營勤勞 | 矮小   | 偶然   | 圓形  | 幼王  | 議事堂  | 人傑   | 一世  |
| 始祖   | 深仇   | 野蠻人  | 練習  | 靈前   | 矮身   | 遇人   | 月給  | 遊園  | 衣食   | 人口   | 一身  |
| 始終   | 甚大   | 野生   | 沿岸  | 映照   | 矮屋   | 宇宙   | 威權  | 有益  | 醫藥   | 人目   | 一新  |
| 市港   | 深思   | 野外   | 緣由  | 領地   | 外交   | 運動   | 威力  | 幽靜  | 毅然不動 | 人物   | 日新  |
| 施行   | 十分   | 野戰   | 煉出  | 銳利   | 外貌   | 運來   | 慰勞  | 乳汁  | 意外   | 人民   | 一心  |
| 試驗   | 雙峰駝  | 野草   | 煉風  | 禮服   | 外府   | 運送   | 威名  | 流涕  | 議員   | 人事   | 一業  |
| 食堂   | 我家   | 若干   | 煉風灰 | 銳意   | 外府   | 運輸   | 胃腑  | 流下  | 議院   | 人生   | 一委  |

|    |      |     |    |     |     |      |    |      |     |    |      |    |     |    |    |      |     |     |     |      |      |    |    |      |     |    |      |     |
|----|------|-----|----|-----|-----|------|----|------|-----|----|------|----|-----|----|----|------|-----|-----|-----|------|------|----|----|------|-----|----|------|-----|
| 自然 | 滋養   | 子孫  | 仔細 | 雌蜂  | 自辯  | 姊妹   | 自立 | 資料   | 自令  | 自大 | 入港   | 入營 | 立身  | 入寇 | 任意 | 林藪   | 任官  | 一話  | 一行  | 一片   | 一敗塗地 | 日熾 | 一種 | 一朝一夕 | 一條  | 一朝 | 一定   | 一日  |
| 壯嚴 | 掌握   | 長繩  | 長成 | 長上  | 將帥  | 丈夫   | 將來 | 檣頭   | 長短  | 將軍 | 長軀   | 將官 | 壯觀  | 長劒 | 雜貨 | 雜沓   | 暫時  | 殘弱  | 昨非  | 作別   | 自後   | 自效 | 自進 | 自主   | 自尊  | 子弟 | 自在   | 自由  |
| 全局 | 全國   | 適用  | 赤色 | 適否  | 的例  | 赤銅   | 適當 | 貯蓄   | 著書  | 狙擊 | 爭衡   | 再會 | 財貨  | 在職 | 在位 | 再三   | 財產  | 栽培  | 財物  | 材木   | 材料   | 財力 | 才略 | 狀害   | 長鐵橋 | 將卒 | 長堤   | 裝載  |
| 錢砲 | 戰鬪   | 填充  | 全體 | 纏着  | 前進  | 戰地   | 前肢 | 轉戰   | 戰爭  | 戰場 | 專掌   | 前章 | 前人  | 田園 | 填咽 | 專心   | 電信術 | 全身  | 傳說  | 電線   | 戰船   | 前面 | 錢兩 | 典當   | 田畝  | 戰端 | 前記   | 全軍  |
| 精銳 | 整然不亂 | 整然  | 精神 | 定時風 | 征稅  | 正色   | 政府 | 征服   | 精兵  | 政柄 | 征伐   | 精密 | 正門  | 整理 | 政略 | 整頓   | 情念  | 接天  | 點火  | 粘着   | 占用   | 絕無 | 絕叫 | 絕景   | 前後  | 轉換 | 轉學   |     |
| 條約 | 鳥獸   | 潮水  | 嘲笑 | 朝夕  | 稠密  | 朝暮   | 製出 | 製鐵業  | 製鐵  | 制定 | 諸將   | 提掌 | 製作所 | 製作 | 第一 | 帝王   | 堤防  | 諸島  | 諸國人 | 諸國   | 帝國   | 征討 | 政治 | 停車場  | 征進  | 定振 | 正中   | 情誼  |
| 左右 | 左列   | 左述  | 左記 | 縱橫  | 鍾出  | 種族   | 終日 | 終身   | 從事  | 從民 | 種類   | 從來 | 從軍  | 終局 | 卒業 | 存廢   | 尊主  | 足響  | 足跡  | 兆候   | 措置   | 造次 | 祖宗 | 朝廷   | 租庸  | 鳥魚 | 條約書  | 條約國 |
| 證書 | 證明   | 蒸氣車 | 蒸氣 | 證據  | 增加  | 櫛比   | 即位 | 中學校  | 中學  | 衆人 | 中央國  | 中央 | 重稅  | 重傷 | 重量 | 蠢蠢不酷 | 準備  | 奏請  | 駐車  | 舟楫   | 主張   | 注意 | 晝夜 | 注射   | 周密  | 住民 | 周到縝密 | 罪惡  |
| 盡力 | 振動   | 進軍  | 塵芥 | 直航  | 直接因 | 職業   | 職工 | 直徑   | 指揮  | 智慧 | 蜘蛛   | 地位 | 智識  | 指時 | 地勢 | 地上   | 支保  | 脂肪質 | 地方  | 知力   | 智慮   | 智能 | 志氣 | 至今   | 地球  | 地境 | 知覺   | 地價  |
| 創業 | 創始   | 創立  | 慘酷 | 參差  | 參領  | 慘憺   | 燦然 | 贊揚   | 掙取  | 鑿開 | 羞恥   | 次第 | 車馬  | 差等 | 徵兆 | 集散   | 什物  | 秩序  | 進向  | 進行   | 進航   | 眞珠 | 眞正 | 眞實   | 眞否  | 進步 | 眞理   |     |
| 體客 | 晴天   | 聽從  | 清淑 | 青松  | 撤廢  | 鐵用   | 徹夜 | 鐵時代  | 鐵器  | 天下 | 千態萬象 | 天障 | 天子  | 天人 | 遷移 | 天意   | 天然  | 天性  | 泉石  | 千事萬物 | 川邊   | 天命 | 千里 | 賤樓   | 千古  | 採集 | 採掘   |     |
| 酋長 | 醜惡   | 追攝者 | 推算 | 推戴  | 追及  | 最後   | 最愛 | 最善   | 最良法 | 最大 | 最多   | 銃丸 | 總稱  | 聰明 | 總理 | 總督   | 忖度  | 村落  | 寸暇  | 招討使  | 草創   | 初創 | 稍進 | 初志   | 硝烟  | 草木 | 草芥   | 體中  |
| 針形 | 沈擊   | 侵地  | 侵入 | 侵擾  | 漆板  | 七落八起 | 親愛 | 親信將士 | 致身  | 馳騁 | 治民   | 治亂 | 測量  | 就學 | 聚集 | 就業   | 就緒  | 臭氣  | 充滿  | 衝突   | 出衆   | 出入 | 出校 | 築造   | 蹴敵  | 畜類 | 蹴倒   | 推薦  |

|      |    |      |      |    |    |      |    |     |    |    |     |    |      |    |    |    |    |    |     |    |      |    |     |     |    |    |     |      |
|------|----|------|------|----|----|------|----|-----|----|----|-----|----|------|----|----|----|----|----|-----|----|------|----|-----|-----|----|----|-----|------|
| 蟄伏   | 稱首 | 稱讀   | 打球   | 他國 | 他方 | 他日   | 他地 | 他處  | 炭酸 | 炭素 | 嘆息  | 彈雨 | 炭鐵   | 炭化 | 彈丸 | 蕩耗 | 太古 | 怠惰 | 土番  | 土人 | 土地   | 通款 | 通氣  | 通商  | 統御 | 通用 | 統一  |      |
| 筒底   | 統治 | 通學   | 統合   | 退却 | 類妃 | 特別   | 特出 | 派遣  | 破棄 | 波濤 | 破水  | 破碎 | 爬蟲類  | 派遣 | 辦理 | 辦備 | 判知 | 膨脹 | 偏見  | 便利 | 編成   | 便益 | 扁平  | 平均  | 評論 | 平常 | 平生  |      |
| 平野   | 平原 | 平和   | 蔽天   | 幣風 | 陛下 | 砲擊   | 捕鯨 | 捕鯨船 | 包括 | 拋棄 | 飽陳  | 拋投 | 輻奏   | 暴漲 | 漂流 | 表面 | 表章 | 標準 | 品格  | 品別 | 品質   | 風靡 | 風俗  | 被盜  | 彼等 | 疲勞 | 皮物  | 疲衰   |
| 避敵   | 彼此 | 必死   | 必死地境 | 必然 | 逼迫 | 下陸   | 河岸 | 河底  | 夏節 | 下層 | 河海  | 河海 | 學科   | 學校 | 學徒 | 學問 | 學兵 | 學生 | 學術  | 學識 | 學業   | 學藝 | 學友  | 學者  | 學資 | 寒氣 | 寒暖  | 寒冷   |
| 寒房   | 割據 | 割與   | 陷沒   | 含有 | 含蓄 | 港口   | 降服 | 抗敵  | 航行 | 海路 | 海陸風 | 海面 | 海邊   | 解散 | 海上 | 海水 | 海岸 | 海外 | 海運  | 海底 | 海程   | 海草 | 海風  | 幸福  | 行習 | 行人 | 鄉曲  | 向進   |
| 許多   | 虛文 | 虛民不君 | 虛送   | 虛實 | 虛傳 | 革破   | 現今 | 賢能  | 顯理 | 賢明 | 顧實  | 懸崖 | 賢愚   | 賢人 | 顯出 | 懸下 | 血液 | 荊棘 | 刑罰  | 形狀 | 形象   | 形勢 | 形容  | 兄弟  | 惠與 | 豪傑 | 豪氣  | 護道布德 |
| 虎視龍讓 | 喘息 | 豪將   | 浩嘆   | 號砲 | 湖河 | 呼吸   | 混合 | 忽然  | 紅日 | 花冠 | 火光  | 禍機 | 禍亂不彌 | 華麗 | 火爐 | 貨物 | 花奔 | 花粉 | 花液汁 | 和議 | 貨幣   | 化學 | 化學上 | 化學者 | 化合 | 和合 | 化合物 | 花卉   |
| 確信   | 歡聲 | 環視者  | 歡呼   | 歡喜 | 闊路 | 活潑   | 活字 | 皇居  | 荒蕪 | 皇室 | 皇帝  | 荒地 | 皇統   | 會同 | 灰白 | 回復 | 灰燼 | 回避 | 劃一  | 橫斷 | 橫恣暴戾 | 曉解 | 效驗  | 後代  | 厚謝 | 厚賞 | 後世  | 後裔   |
| 後足   | 厚皮 | 後學   | 訓戒   | 勳功 | 勳業 | 揮尾一擊 | 休憩 | 休憩  | 凶惡 | 痕迹 | 欽慕  | 欽仰 | 吸收   | 吸收 | 吸收 | 興起 | 興隆 | 興亡 | 希望  | 稀薄 | 喜色   | 稀少 | 嬉戲  | 詰難  |    |    |     |      |

245

柱石 卽是 天地 天下 天下萬物 天下事 踐履 清高 清冷 清淨 青雲 平民 平生 布在 暴揚 風霜 避亂 避禍 必勝 畢竟

學部編纂  
新訂尋常小學  
(二八九六年)

近時 其餘 紀元節 奇異 其中 農工商 農事 答曰 大君主 大不可 大小 到底 同生 動靜 燈火 萬國 萬民 萬壽聖節 盲者 牧丹 武器 文明 問安 問曰 半面 方法 放送 繁茂 帆船

寶玉 本來 奉祝 分給 非但 霏霏 譬喻 辭讓 獅子 使喚 山林 山僧 上大君主 上面 霜雪 生徒 生業 書籍 昔時 善良 小斧 俗談 孫子 衰弱 輸運 水沉 試驗 植物 身體

心中 十分 惡事 惡友 櫻木 魚類 然後 英雄 例事 五穀 誤錯 王妃 勇猛 牛馬 元年 鴛鴦 有益 陸軍 恩惠 衣服 疑訝 意外 異同 日本國 入闕 自鳴鍾 滋味 自後 長成

貪慾 誕生 他獸 稱讚 草鞋 草木 簷下 天下 悽愴 處所 冊衣 着實 此後 此日 此外 津船 智慧 智成 地方 支那 知覺 蒸氣力 操心 漸漸 前後 專心 全身 適當 儲蓄







248

玄采著幼年必讀（二九〇七年）

|     |    |      |     |     |     |     |     |      |    |      |     |    |     |     |    |    |    |    |     |    |     |      |    |    |    |    |
|-----|----|------|-----|-----|-----|-----|-----|------|----|------|-----|----|-----|-----|----|----|----|----|-----|----|-----|------|----|----|----|----|
| 他國  | 都邑 | 權利   | 同胞  | 各國  | 歷代  | 如此  | 本朝  | 兩國   | 學生 | 諸君   | 即今  | 大利 | 他人  | 緣故  | 自修 | 臣下 | 我國 | 世上 | 第一  | 軍士 | 學問  | 人民   | 世界 | 地境 | 人君 | 獨立 |
| 壓制  | 王室 | 保全   | 政事  | 青春  | 大臣  | 無道  | 朝廷  | 功臣   | 同窓 | 反正   | 奇異  | 入寇 | 奴隸  | 地方  | 危殆 | 有名 | 本分 | 戰爭 | 悔改  | 百姓 | 振動  | 天下   | 平定 | 恢復 | 全國 | 和親 |
| 宮女  | 逃亡 | 一等國  | 人類  | 畢境  | 侵擄  | 相臣  | 四方  | 中興   | 變易 | 將帥   | 作亂  | 感動 | 西洋  | 人口  | 降服 | 崇尚 | 羞恥 | 少年 | 世民  | 禍亂 | 興亡  | 萬一   | 警戒 | 文明 | 今日 | 敵兵 |
| 勇猛  | 至今 | 大事   | 君臣  | 民辱  | 大驚  | 物品  | 物產  | 文章   | 興盛 | 無訴   | 亡國  | 農事 | 萬國  | 防備  | 景致 | 大敗 | 官吏 | 大破 | 獨立國 | 來往 | 古今  | 大抵   | 待接 | 外國 | 貴國 | 皇帝 |
| 風俗  | 外人 | 一等郡  | 距今  | 外國人 | 忠節  | 上監  | 人才  | 此外   | 江山 | 四面   | 將軍  | 奸臣 | 不得已 | 私人  | 主人 | 宗室 | 尊貴 | 以上 | 議論  | 飲食 | 政府  | 靈魂   | 念慮 | 怨讐 | 著述 | 思想 |
| 才調  | 東洋 | 動兵   | 謀害  | 帽子  | 謀逆  | 名將  | 名臣  | 每日   | 每事 | 凌侮   | 賂物  | 屈服 | 堂堂  | 根源  | 禽獸 | 貴賤 | 氣勢 | 種子 | 各各  | 父母 | 人種  | 使臣   | 自由 | 養成 | 紅蔘 | 城內 |
| 開明  | 開國 | 自然   | 興復  | 文學士 | 盜竊  | 大國  | 門閥  | 茫然   | 窮究 | 荒淫   | 橫暴  | 官員 | 無禮  | 花草  | 斷髮 | 大將 | 兼備 | 果然 | 發明  | 大兵 | 大門  | 計策   | 對答 | 物件 | 恭敬 | 路上 |
| 慰勞  | 怨望 | 龍馬   | 王后  | 頑固黨 | 禮實侍 | 領議政 | 年號  | 年幼   | 愛國 | 心力   | 實力  | 始祖 | 循良  | 樹木  | 舉動 | 生覺 | 上書 | 相距 | 山蔘  | 謝罪 | 事業  | 父子兄弟 | 府伊 | 本國 | 伏誅 | 排設 |
| 傳位  | 專權 | 賊將   | 敵國  | 壯士  | 自取  | 子弟  | 自作孽 | 自由民  | 形勢 | 自殺   | 一身  | 一代 | 一國  | 一個人 | 人情 | 人物 | 人倫 | 忍耐 | 理致  | 以外 | 義兵  | 依賴   | 倫理 | 肉身 | 遺像 | 爲人 |
| 天地  | 天倫 | 千古   | 處事  | 此國  | 鎮定  | 進謁  | 直臣  | 地質   | 地勢 | 即位   | 主張  | 晝夜 | 主管  | 罪惡  | 宗教 | 尊卑 | 存亡 | 條約 | 弟子  | 帝王 | 庭下  | 政治   | 正色 | 征伐 | 定配 | 節義 |
| 勤王兵 | 謹慎 | 近時   | 弓箭手 | 宮內部 | 規則  | 貴重  | 貴人  | 厥然   | 勸獎 | 權勢   | 其時  | 大宴 | 人蔘  | 遊覽  | 形象 | 向者 | 行爲 | 恆常 | 學者  | 懇切 | 學堂  | 平地   | 偏黨 | 土地 | 擇用 | 忠烈 |
| 跋扈  | 道路 | 勃然   | 度量  | 都賈  | 德強  | 大喜  | 發賣  | 大助鴻業 | 發達 | 宮內大臣 | 半空中 | 到處 | 及第  | 今年  | 妓生 | 騎兵 | 起兵 | 奇兵 | 寄別  | 羈絆 | 記錄  | 其國   | 近世 | 近來 | 今者 | 其外 |
| 遽然  | 讀書 | 獨立國民 | 大會  | 曲盡  | 大皇  | 穀食  | 撲殺  | 舉兵   | 大幸 | 博士   | 撲燈  | 民安 | 賊   | 孤立  | 鼓動 | 大醉 | 詰難 | 哭聲 | 苦心  | 民生 | 大提學 | 都城   | 彌滿 | 島嶼 | 各色 | 古書 |

|     |     |      |      |    |     |      |    |     |     |      |      |      |    |     |      |      |    |     |     |      |    |    |      |      |      |     |     |     |
|-----|-----|------|------|----|-----|------|----|-----|-----|------|------|------|----|-----|------|------|----|-----|-----|------|----|----|------|------|------|-----|-----|-----|
| 皇室  | 登極  | 文獻   | 東學   | 內部 | 攻伐  | 來歷   | 共同 | 同情  | 建國  | 功德   | 同心   | 狼藉   | 同姓 | 東西  | 南偏   | 同淚   | 故宮 | 濫殺  | 棟梁  | 東南   | 南脈 | 敦行 | 忌憚   | 頓絕   | 其中   | 其人  | 既而  | 獨行  |
| 工場  | 每年  | 農商工部 | 輕學妄動 | 妄想 | 農家  | 老人星  | 工業 | 老少論 | 老少  | 末年   | 萬弩千峯 | 萬乘天子 | 檄書 | 萬世  | 奴婢   | 萬年基址 | 老論 | 冷笑  | 內患  | 工夫   | 內集 | 內外 | 萬古以來 | 馬匹   | 登聞鼓  | 儉素  | 屹然  | 都僧  |
| 堂下  | 當派  | 當日   | 毛織   | 當時 | 警務廳 | 大戰   | 敬慕 | 侮辱  | 茅屋  | 多小   | 母夫人  | 模範   | 謀略 | 卿大夫 | 凌蔑   | 名畫   | 名筆 | 關係  | 陋湫  | 名山佳景 | 名山 | 屢次 | 面目   | 勉勵   | 盟誓   | 每戶  | 工曹  | 農植物 |
| 文武才 | 文武  | 階梯   | 文明事業 | 慶祝 | 大節  | 文名   | 文來 | 代理  | 紊亂  | 大略   | 大同法  | 經濟大家 | 文匣 | 誣陷  | 大怒   | 大君   | 無他 | 無識  | 郡守  | 無毒   | 敬醒 | 軍部 | 無斷   | 無功   | 京師   | 誣告  | 母后  | 軍門  |
| 效颦  | 橫行  | 大才   | 古國   | 會同 | 大義  | 皇后   | 遑遑 | 荒蕉  | 大位  | 大元帥  | 等待   | 內謁   | 黃豆 | 惶恐  | 活動   | 歡喜   | 和解 | 計下  | 大小  | 畫師   | 和陸 | 大勢 | 大使   | 文學   | 屈起   | 文字  | 文書  | 大病  |
| 安居  | 我時  | 我輩   | 百端   | 我家 | 審視  | 深謀遠慮 | 排斥 | 實效  | 實相  | 本宮   | 本國人  | 新則   | 新槍 | 神人  | 神仙之境 | 臣民   | 新奇 | 植物  | 試取  | 始初   | 侍中 | 培養 | 三面   | 同行   | 勳業   | 後世  | 孝子  | 孝誠  |
| 白蔘  | 然則  | 緣由   | 夫婦朋友 | 年少 | 宴樂  | 研究   | 俯伏 | 力學  | 力戰  | 父母妻子 | 如何   | 父母祖宗 | 女主 | 與黨  | 言語   | 良將   | 白米 | 養兵說 | 兩道  | 兩黨   | 渠魁 | 野人 | 惹起   | 不動   | 仰慕   | 負擔  | 婦女  | 富強  |
| 外叔  | 外部  | 分裂   | 奮然   | 外交 | 繁盛  | 往謁   | 分明 | 完然  | 憤怒  | 臥薪嘗膽 | 臥床   | 獄中   | 獄事 | 玉帛  | 嗚呼   | 五色   | 北方 | 榮華  | 部下  | 榮幸   | 不知 | 永遠 | 領率   | 永滅   | 恰利   | 念佛  | 開化黨 | 悅樂  |
| 威風  | 不老草 | 佛道   | 威嚴   | 不及 | 怨恨  | 怨尤   | 原野 | 不過  | 冤讐  | 不可活  | 元來   | 雄據   | 牛皮 | 愚蠢  | 愚迷   | 牛馬   | 憂國 | 勇將  | 用心  | 用事   | 不可 | 分毫 | 勇氣   | 搖錘法  | 擾亂   | 外戚  | 忿限  | 外憂  |
| 備考  | 不和  | 疑端   | 陰陽說  | 不聽 | 陰濕  | 恩惠   | 隱逸 | 不撤  | 輪車  | 陸戰   | 不義   | 遊戲   | 遺恨 | 留學  | 遺詔   | 悲忿   | 移御 | 誹謗  | 有用  | 維新事業 | 儒臣 | 江中 | 不安   | 佛像   | 由來   | 不利  | 幼年  | 有功  |
| 貧寒  | 忍聞  | 賓主   | 貧困   | 琵琶 | 卑賤  | 隣近   | 各處 | 飛蛾  | 忍見  | 印刊   | 人家   | 益密   | 益勉 | 以後  | 悲憤   | 利益   | 悲慕 | 移御  | 誹謗  | 耳目口鼻 | 以來 | 議政 | 義士   | 依附   | 衣服   | 義兵將 | 卑屈  | 義務  |
| 一日  | 日月  | 一夜   | 邊邑絕地 | 一時 | 一世  | 日使   | 一死 | 一分  | 一變  | 日望   | 私私   | 事變   | 一洞 | 改革  | 日起   | 事務   | 思慕 | 法部  | 死亡  | 事理   | 人人 | 因緣 | 人心   | 人生   | 私計   | 人士  | 隣邦  | 問道  |
| 孱弱  | 自後  | 自取其禍 | 社稷   | 自此 | 自主權 | 四肢百體 | 疆土 | 兵力  | 自由權 | 事蹟   | 使者   | 子息   | 辭意 | 兵器  | 自立   | 兵權   | 紫金 | 自古  | 自強力 | 私心   | 自甘 | 別宮 | 一毫   | 一向振發 | 一筆揮之 | 日進  | 一齊  | 一點  |

|     |      |      |      |    |      |     |    |      |      |    |      |      |      |    |     |     |     |      |    |     |     |      |     |      |    |      |      |     |
|-----|------|------|------|----|------|-----|----|------|------|----|------|------|------|----|-----|-----|-----|------|----|-----|-----|------|-----|------|----|------|------|-----|
| 暫時  | 長劍   | 長驅大進 | 寺刹   | 張本 | 社會   | 長成  | 甲冑 | 壯勇營  | 掌中物  | 將且 | 長歎   | 再嫁   | 財物   | 才分 | 財產  | 再三  | 宰相  | 在位   | 山脈 | 爭權  | 爭辨  | 山鳴   | 沮戲  | 兵士   | 山上 | 山色   | 賊陣   | 殿閣  |
| 戰功  | 傳國   | 山城   | 山水   | 戰備 | 田產家宅 | 山水間 | 前日 | 山中   | 前朝   | 全體 | 專托   | 戰敗   | 展布   | 田品 | 節概  | 絕大  | 絕倫  | 絕勝   | 切實 | 山川  | 絕和  | 侍御史  | 三神山 | 接踵   | 正當 | 正大   | 正大光明 | 整頓  |
| 正理  | 夢田   | 三寸   | 精兵   | 強國 | 甲司   | 兵書  | 政丞 | 政體   | 精忠大節 | 商賈 | 精通   | 凱歌   | 精血   | 諸國 | 上等  | 相忘  | 帝位  | 第二   | 干涉 | 商務  | 製造  | 祖國   | 操鍊  | 朝命   | 兵勢 | 弔義帝文 | 病臥   | 造化  |
| 族徵  | 相業   | 上將軍  | 相爭   | 尊崇 | 鐘閣   | 相從  | 從事 | 上天   | 罪過   | 上下 | 注目   | 柱石之臣 | 病吞   | 珠玉 | 生擒  | 鑄字所 | 生命  | 鑄造   | 舟楫 | 準備  | 重大  | 中矢傷目 | 衆人  | 生死   | 生鮮 | 生時   | 智強   | 生存  |
| 地球上 | 西教連坐 | 西宮   | 地方官  | 地閣 | 西北   | 智勇  | 書案 | 地下含笑 | 直犯   | 病患 | 西洋教  | 盡力   | 進伐   | 進士 | 鎮山  | 書冊  | 石炭  | 執政   | 煽動 | 此心  | 此兩國 | 善良   | 遮日  | 此後   | 纂輯 | 慘狀   | 先鋒   | 參政  |
| 創業  | 彩色   | 貢望   | 開導   | 處士 | 處處   | 斥和  | 薦舉 | 寶劍   | 儒術   | 天命 | 天文   | 賤役   | 天然   | 天意 | 天造  | 禪位  | 善政  | 鐵甲船  | 鐵橋 | 青白氣 | 請兵  | 聽從   | 先進國 | 體強   | 初入 | 招討   | 寵任   | 抽斂錢 |
| 追崇  | 推尋   | 醜惡   | 樞要地  | 祝願 | 出口   | 出納  | 設置 | 充分   | 雪恥   | 報答 | 層生疊出 | 層巖絕壁 | 親舊   | 親愛 | 城門  | 沈香  | 稱臣  | 稱號   | 城壁 | 聲色  | 誠心  | 度支部  | 歎息  | 貪慾   | 間諜 | 太古   | 殆半   |     |
| 太守  | 怠惰   | 泰平   | 太平盛代 | 聖人 | 土木   | 討罪  | 保守 | 土豪   | 痛哭   | 通商 | 統一   | 統制使  | 通暢   | 特異 | 播遷  | 判決  | 辦備  | 判書   | 敗將 | 世念  | 便安  | 平轎子  | 平民  | 平安一道 | 勢力 | 布施   | 平和   | 弊政  |
| 陛下  | 廢后   | 包裝   | 暴虐   | 逋欠 | 風磐   | 監司  | 雅樂 | 疲困   | 被殺   | 被弑 | 被弊   | 被害   | 世事   | 必讀 | 逼迫  | 學校  | 學校法 | 世事全昧 | 虐待 | 保身  | 學部  | 世人   | 開戰  | 虐政   | 悍卒 | 割剝   | 合力   | 合流  |
| 合心  | 港口   | 稅錢   | 解散   | 海上 | 海峽   | 行實  | 居留 | 行在所  | 鄉校   | 香氣 | 少論   | 許諾   | 險固   | 險難 | 賢良  | 賢明  | 賢臣  | 血肉   | 血痕 | 協力  | 形貌  | 所生   | 強毅  | 形容   | 兄弟 | 兄弟姊妹 | 婚姻   |     |
| 忽然  | 少時   | 火攻   | 畫圖   | 屍身 | 安寧   | 堪耐  | 押送 | 深察   | 各事   | 衰弱 | 衰弱   | 羞愧   | 守舊大宮 | 水軍 | 開化派 | 受業  | 輸入  | 水戰   | 數次 | 背反  | 手下  | 殉國   | 復位  | 順受   | 純全 | 開川   | 僧道   | 試官  |
| 時務策 | 詩書畫  | 時勢   | 屍身   | 安寧 | 堪耐   | 押送  | 深察 | 各事   | 可謂   | 可懼 | 街里   | 各部   |      |    |     |     |     |      |    |     |     |      |     |      |    |      |      |     |

君臣 口體 救援 舅姑 教育 驕慢 關心 空然 恭順 恭遜 恭敬 曲從 苦心 姑婦 輕相 敬待 警戒 兼治 潔淨 拒逆 感動 懇切 問言 問隔 各處 却謹 家庭

同壻 同等 同己 同權 同具 道理 待接 對敵 淡粧 端正 勞悴 內政 內外 男便 男子 男女 飢寒 忌憚 技術 器皿 祈禱 近親 謹慎 根本 規模 權利 窮相

夫婦 父母 婦禮 婦女 服從 保全 病患 法度 百性 方便 方位 放恣 盤床 微細 問議 問安 無鹽 無力 妙方 沐浴 模樣 名分 命令 每日 每事 萬一 萬事

手脚 所欲 歲月 洗手 世上 性品 盛服 聖經 褻慢 生育 雙龍 相救 辭讓 事理 史記 賓客 非禮 朋友 不孝 不順 不衰 不和 不敬 分義 分別 父子 婦人

女憲 女行 女子 女容 女言 女士 女範 女德 女功 言語 語言 糧饌 夜膳 安全 安慰 顏色 實業 失時 失手 臣下 神明 殖利 是非 承順 順從 順服 修身

人倫 人君 儀容 醫藥 衣裳 衣服 依賴 應對 陰陽 飲食 音聲 恩惠 恩愛 融融 潤澤 有行 柔順 怨望 偶然 友愛 外庭 五采 午餐 五倫 禮節 禮讓 豫備 禮貌 禮記

主張 主人 晝夜 周旋 罪惡 從容 終身 終始 操心 朝夕 調理 裁縫 整齊 情意 貞烈 精誠 整頓 精巧 節操 專一 全然 專心 裝飾 丈夫 雜湯 自主 自由 立身 日用

虐待 平康 通達 太初 湯藥 他人 稱讚 寢所 親狎 忠誠 出入 出嫁 聰明 焦燥 體制 體貌 賤相 處身 責望 昌盛 饌需 懲戒 職分 知惠 遲滯 至誠 知能 至極 中媒

回復 悔改 後日 孝婦 孝道 孝敬 黃昏 慌忙 戶庭 兄弟 兄嫂 形象 嫌疑 賢哲 賢妻 行實 恆常 學問

253

|      |      |      |    |
|------|------|------|----|
| 尊重   | 眞實   | 他國   | 賢人 |
| 宗家   | 鎮定   | 他人   | 血屬 |
| 種類   | 秩序   | 土事   | 挾雜 |
| 宗孫   | 徵兵   | 通情   | 挾戶 |
| 罪人   | 昌盛   | 特別   | 形狀 |
| 主權   | 責望   | 特異   | 兄弟 |
| 酒色   | 天道   | 八字   | 毫末 |
| 走獸   | 千萬事物 | 敗家亡身 | 豪奢 |
| 晝夜長川 | 天然   | 牌長   | 婚姻 |
| 主人   | 天長地久 | 便利   | 忽然 |
| 主張   | 天地   | 片時   | 洪業 |
| 準備   | 天地間  | 平等   | 畫圖 |
| 蠢蠢   | 天下   | 平安   | 禍福 |
| 中間   | 天下萬國 | 陛下   | 和順 |
| 知覺   | 鐵事   | 標準   | 和平 |
| 紙卷烟  | 清潔   | 豐足   | 患難 |
| 地方   | 青春少年 | 風采   | 活潑 |
| 支孫   | 草家三間 | 皮膚   | 黃金 |
| 知識   | 總理大臣 | 彼此   | 皇室 |
| 地位   | 聰明   | 必要   | 孝悌 |
| 紙錢   | 最大   | 學校   | 興旺 |
| 指定   | 出斂   | 學問   |    |
| 至情   | 忠誠   | 漢文   |    |
| 至親   | 忠信   | 限定   |    |
| 織工   | 忠義   | 解怠   |    |
| 職分   | 忠孝兼全 | 行廊   |    |
| 職業   | 治療   | 行實   |    |
| 振起性  | 勅令   | 行用   |    |
| 進步   | 侵犯   | 許多   |    |